

## 埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームキックオフイベント - 概要 -

### ■開催日時／開催方法／参加者数

- 令和5年2月9日（木曜日）14時10分～14時55分
- zoomによるオンライン開催
- 204名

### ■内容：トークセッション「なぜ、今孤独・孤立対策が必要なのか」

- 孤独・孤立とは
- 孤独・孤立に関する経験談
- 必要な支援・視点の方向性について
- 声を上げやすい、掛けやすい社会づくりに向けて

### ■登壇者

#### パネリスト

- 宮本 太郎 氏（中央大学法学部教授、孤独・孤立対策に関する有識者会議構成員）
- ユージ 氏（タレント、埼玉応援団メンバー、孤独・孤立の体験者）
- 大野知事

#### モデレーター

- 大西 連 氏（認定NPO法人自立生活サポートセンターもやい理事長、内閣官房孤独・孤立対策室政策参与）

# 埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームキックオフイベント -トークセッション-

## ■孤独・孤立とは

大西様より、孤独・孤立問題の現状や、内閣官房が実施した統計調査の結果、これまでの日本国内における政府の取組等の観点から、孤独・孤立問題全般についてお話をいただきました。

## ■POINT

- 現代社会は人と人とのつながりが希薄化。
- 困っている人が SOS を出しにくい状況。
- 国の調査の結果、約 4 割の方が何等かの孤独を感じているという結果が出た。
- これからは給付やサービスの提供といった福祉的支援を充実させるだけでなく、その前段階にある日常生活や地域をどのように豊かにしていくのかという観点も必要。



そもそも……孤独・孤立になりやすい状況。  
「つながり」が希薄な社会になっている

- ・単身世帯や核家族 親族は遠方
- ・隣に誰が住んでいるかわからない
- ・非正規で働いている 生活に余裕ない
- ・基本は職場と家の往復
- ・買い物もスーパーやオンライン
- ・メンタル的に不調

⇒日々の生活で「つながり」を感じることは少ない  
⇒実際に困りごとを抱えたとして周囲にSOSを出せているだろうか？  
例えば：生活困窮、病気、子育て、介護、不登校、ひきこもり、  
DV・性暴力、メンタルの不調……

「なぜ、今 孤独・孤立対策が必要なのか」



## ■孤独・孤立に関する経験談

ユージ様から実際に体験した孤独・孤立に関するエピソードや、そこからどうやって救われたのか等についてお話いただき、大野知事や宮本先生からコメントをいただきました。

## ■POINT

- 小学生の時に日本語が話せずに孤独を感じたが、一人でいるときに声を掛けてくれた人の表情や声のトーンから気持ちが伝わってきた。
- 周りの人の積極的すぎない言葉や手は後になって絶対に届くと思う。
- コミュニケーションを成立させることが孤独を超える一歩なのではいか。
- 日本語が話せても、言葉がうまく伝わらず似たような経験をした人がいるのではないか。
- 似たような経験をした人と出会い、共感したときに救われた気持ちになった。



## ■必要な支援・視点の方向性について

宮本様から仕事をリタイアした後の孤独感・孤立感を例に、これからの地域に必要な縁についてお話をいただき、大野知事・ユージ様からもコメントをいただきました。

## ■POINT

- 仕事を辞めた後、一人の個人として周りの地域とどの程度繋がっているか。
- 日本はこれまで社縁（会社の縁）が強い傾向にあり血縁・地縁を吸収・肥大化していたが、今では社縁も縮小して、無縁の状態。
- 地縁・社縁・血縁を上手く使いながら必要縁（介護、子育て、地域おこし等）をどのように増やせるか。
- 一人でいたいと思っている人対し、無理につながりを作って鬱陶しいと思われないようにする必要がある。



# 埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームキックオフイベント -トークセッション-

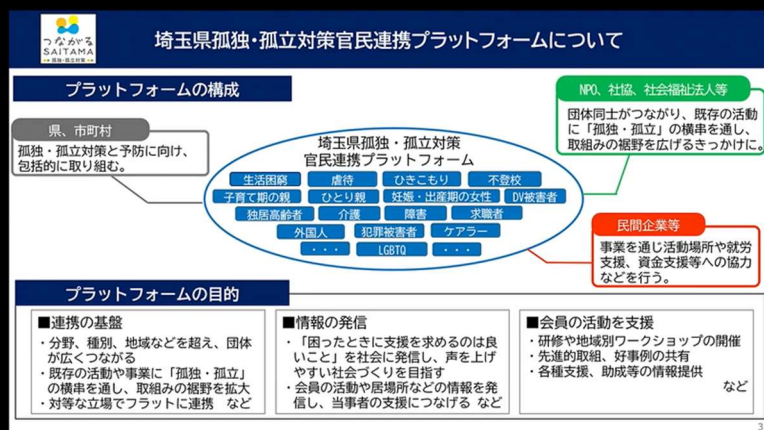
## ■埼玉県における孤独・孤立対策について

大野知事から、プラットフォーム設置に至るまでの経緯や議論、これからの埼玉県における孤独・孤立対策についてお話をいただき、宮本様からもコメントをいただきました。

## ■POINT

- 学識経験者や市町村、地域活動実践者等の意見を踏まえ、プラットフォームの設置に至った。
- 既存の取組に孤独・孤立という横串を刺して、取組の裾野を広げていきたい。
- 連携という言葉は便利だが、それを実現させるためには、例えば県と市町村の連携の形が具体的に見えているどうか重要なのではないか。
- 孤独・孤立対策が必要と言われても市町村は具体的に何をすればいいのか困ると思う。
- マッチングの機会として、まずはプラットフォームに参加いただきたい。

「なぜ、今 孤独・孤立対策が必要なのか」



**プラットフォームの構成**

埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

生活困窮 虐待 ひきこもり 不登校  
子育て期の親 ひとり親 妊娠・出産中の女性 DV被害者  
独居高齢者 介護 障害 求職者  
外国人 犯罪被害者 ケアラー  
LGBTQ


県、市町村  
孤独・孤立対策と予防に向け、包括的に取り組む。

NPO、社協、社会福祉法人等  
団体同士がつながり、既存の活動に「孤独・孤立」の横串を通し、取組の裾野を広げるきっかけに。


民間企業等  
事業を通じ活動場所や就労支援、資金支援等への協力などを行う。

**プラットフォームの目的**

- 連携の基盤
  - 分野、種別、地域などを超え、団体が広くつながる
  - 既存の活動や事業に「孤独・孤立」の横串を通し、取組の裾野を拡大
  - 対等な立場でフラットに連携 など
- 情報の発信
  - 「困ったときに支援を求めるのは良いこと」を社会に発信し、声を上げやすい社会づくりを目指す
  - 会員の活動や居場所などの情報を発信し、当事者の支援につなげる など
- 会員の活動を支援
  - 研修や地域別ワークショップの開催
  - 先進的取組、好事例の共有
  - 各種支援、助成等の情報提供 など



大野 元裕





## ■声を上げやすい、掛けやすい社会づくりに向けて

登壇者の皆様から、孤独・孤立状態にある方が声を上げやすい、掛けやすい地域を作っていくためにはどのようなことが必要なのかメッセージを頂きました。

## ■POINT

- 周りの人から周りとつながっているように見える人でも、その人が求めているつながりである必要があるのではないか。
- 孤独・孤立対策が必要だからと言って、無理矢理つらい関係に巻き込んではいけない。
- 行政による働きかけと地域が連動して、職場と家庭以外の第3の居場所をどうやって確保していくか。
- 人生の局面によって、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうること。
- 支援を求めること、受けることが当たり前であるという意識を県全体ワンチームで考えていきたい。

